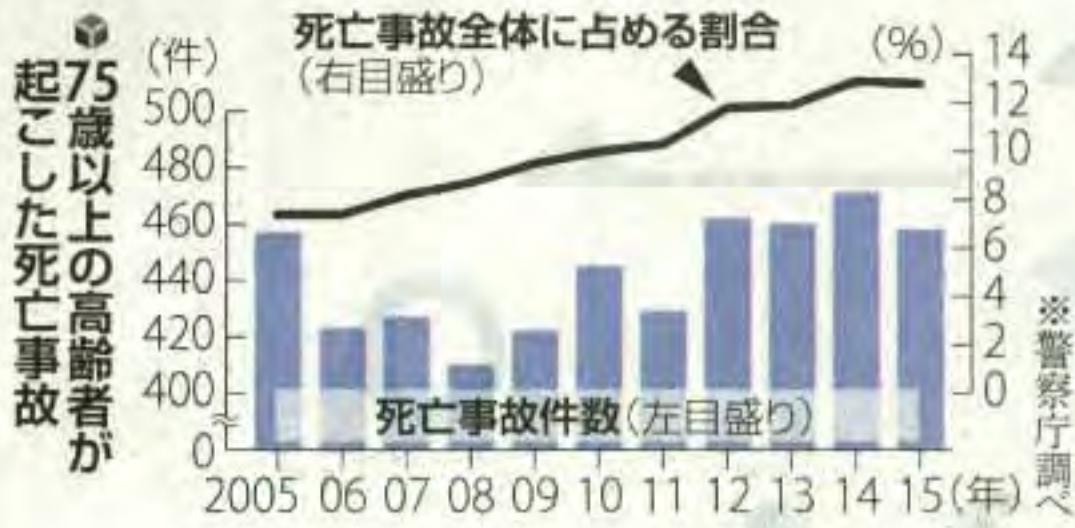


Around



75歳以上の高齢者が起こした死亡事故が

免許返納 カギは「足」確保

警察庁によると、75歳以上のドライバーが起こした死亡事故は、2015年には458件あった。死亡事故全体に占める割合は、05年には7.4%だったが、15年には12.8%に達している。

医療関係者の助言効果

看護師計4人を「運転適性相談員」として配置した。相談員は、認知症などで運転に不安を感じる人やその家族からの相談に応じる。

宮崎県内で免許を返納した65歳以上の高齢者は、昨年は過去最高の2907人だった。高齢者から聞き取りを行った相談員が、認知症の疑いを見抜き、返納につなげたケースもあるという。

大分県別府市などで給油所11店を展開する同市東荘園の「西石油」は昨年9月、返納者の自宅に灯油を無料で配達するサービスを始めた。灯油の購入者が自分の車で自宅まで運ばずに済むことから、返納者のニーズがあると見込んでいる。

しかし実際には、高齢者が車を運転し、灯油を買って帰る状況が続いている。西寛之専務(34)は「別府は坂道も多く、畑仕事や通院などで車は必要。バスなども限られており、免許を手放すことができないのでは」と推察する。

①太陽交通のタクシーと割引証(見本) ②長崎県諫早市と大村市で、県営バスが定額乗り放題となる「免許返納者バス」



タクシー会社が割引 県営バス乗り放題に

での割引は2011年、バスから1割引きでも助かる」節約になってありがたい」といって声が寄せられているという。割引証は、返納を証明する「申請による運転免許の取消通知書」などをタクシーの営業所に持参すれば受け取れる。利用者は料金を払う際、同社が発行する顔写真入りの割引証を提示する。通院で定期的に1車を手放すことで維持費などが不要となり、交通費

に回せる交通事故の加害者になる可能性がなくなる——を挙げる。高齢者による事故を伝えるニュースが増えた最近、申し込みが急増しているという。同社行橋営業所の担当者は「以前は1週間に1人程度だったが、今はほぼ毎日になった」と話す。同社では、65歳未満の人でも、判断能力の低下などを理由

由に返納を希望する可能性があるとして、1月16日には年齢制限をなくした。

長崎県交通局は諫早市と大村市で、免許証を返納すると県営バスが月額3000円で乗り放題になる社会実験を行っている。5月まで実験を続け、6月から本格導入する予定だ。

九州山地の山あいにある宮崎県西米良村は今年度、65歳以上の返納者に14万4000円分のタクシー券を贈る制度を始めた。これまでに受け取った人は5人。昨年度の1年間に返納した村民は1人だったことから、村の担当者は返納する人が思ったより多い」と話す。

大分県別府市などで給油所11店を展開する同市東荘園の「西石油」は昨年9月、返納者の自宅に灯油を無料で配達するサービスを始めた。灯油の購入者が自分の車で自宅まで運ばずに済むことから、返納者のニーズがあると見込んでいる。

「生活の足を失うと、日々の暮らしに困るはず。そんな人のお手伝いができれば」。福岡県と大分県でバス・タクシー事業を展開する太陽交通(本社・福岡県行橋市)の堀貫治社長は強調する。同社とグループ会社は免許証を返納した人に、タクシー運賃は1割引き、路線バスの運賃は半額にするサービスを実施している。

団塊世代の高齢化で、返納者が増える想定。65歳以上の返納者を対象に、タクシー

「長崎市内でも利用したい」「県営バスならどこでも乗り放題に」といった要望もあるという、同局は本格導入時、長崎市にもバスの利用範囲を拡大することを検討している。

同局がアンケート調査で返納の理由を尋ねたところ、「運転に自信がなくなった」「運転するのは危ないと家族に忠告された」との回答が多かった。「バスを知ったから」と答えた利用者もあり、県交通局経営企画室の坂本貴典室長(55)は「返納を促す一定の効果があった」とみている。

ただ、苦戦する取り組みもある。

利用者は「免許返納者バス」を購入し、降車時に運転手に提示する。実験を始めた昨年6月以降、購入者は延べ約180人になる。ほとんどが60歳以上で、主に通院や買い物でバスを使っている。

村によると、村内を走るバスは1日2〜4便。一方で、村内8地区から村中心部までタクシーを利用すると、片道で平均約3000円かかる。村は月2回の往復で1年間の利用を想定。返納を判断できる程度の高額に「考え、タクシー券の金額を設定した。

昨年未現在、65歳以上の村民510人のうち、免許保有者は296人。村は来年度も制度を続ける方針だ。